

## 5. フィールドサイエンスセンター新聞等掲載一覧

(令和4年度)

	掲載日	新聞社名	内 容
1	5月11日	毎 日 新 聞	松田浩一教授（附帯施設水産実験所）が近年、三重県内で大きく漁獲量が減少しているマナマコについて、英虞湾での実態を調査していることが掲載された。
2	5月14日	中 日 新 聞 伊 勢 新 聞	本研究科 松田浩一教授（附帯施設水産実験所）が志摩市水産高にてアオリイカの「産卵床」を手作りする授業を志摩市水産高で5月13日に実施したことが紹介された。
3	6月4日 6月8日	伊 勢 新 聞 中 日 新 聞	生物資源学部で開発された『弓形穂（ゆみなりほ）』を原材料に高校生らがつくる純米吟醸酒づくりの過程で、県立明野高校と県立伊勢工業高校が連携し、6月1日に両校の生徒が田植えを行ったことが紹介された。 「弓形穂（ゆみなりほ）」については、関谷信人教授（資源循環学専攻国際・地域資源学講座国際資源植物学教育研究分野）、長菅輝義教授（附帯施設農場）が携わっている。
4	8月1日	読 売 新 聞	読売新聞の『海水浴場に人を襲うイルカ、鋭利な歯でかまれ救急搬送も...「かわいくても危険』という見出しの記事の中で、本研究科の吉岡基教授（附属鯨類研究センター）のコメントが掲載された。
5	8月12日	朝 日 新 聞	志摩市の沿岸で『磯焼け』が進んでいるという記事の中で、本研究科の松田浩一教授（附帯施設水産実験所）の説明が掲載された。
6	9月22日	毎 日 新 聞	『減る海女...「磯焼け」進行、休廃業に拍車 鳥羽、志摩で5年ぶり調査』という記事の中で、附帯施設水産実験所と藻類学研究室、地域の水産研究機関、市役所や県で組織している「三重県藻場研究会」の調査について掲載された。
7	9月26日	中 日 新 聞	三重版『追う』というコーナーの記事の中で、松田浩一教授（附帯施設水産実験所）が志摩半島で進む藻場の衰退と漁業への影響、今後の見通し等を説明した。
8	11月26日	毎 日 新 聞	「全国海女サミット2022」（11月25～26日開催）で基調講演「変動する環境と磯根資源～黒潮大蛇行の影響から～」を行った松田浩一教授（附帯施設水産実験所）の講演内容が紹介された。
9	1月8日	伊 勢 新 聞	三重県沿岸の藻場の衰退（磯焼け）に関する記事が掲載され、その要因としての水温上昇の状況、漁業への影響、産学官連携で藻場を守る取組みについて、松田浩一教授（附帯施設水産実験所）の解説が掲載された。